

(イ) スルタン・メモリアル中学校での新築1棟6教室の建築



学校の土台となる鉄骨や材木が運び込まれ、必要なものが揃っているかひとつひとつ確認作業を行う。



図面に沿って足場が組まれ、本格的な工事が開始



地面に深く掘られた穴に、鉄骨を埋め込んでいき、頑丈な柱を作る。



学校の床を整えるために使う砂利



学校の壁になるブロックの運搬



建設会社の従業員と村の人が参加する形で、建設が順調に進んでいる。

(ハ) 「平和の学校」 (SOP: School of Peace) 準備活動
 テーマ：「平和の概念」や「平和の学校 (SOP)」の基礎

1) 2月3日 (金)～6日 (月)：南部ミンダナオ大学
 受講者：ティストゥラン村の小学生30名



平和とは何か？「闘いがないこと」「互いに大切にすること」「団結し、ともに働くこと」



参加者同士がお互いを理解するセッション



平和的解決の方法を学ぶ子どもたち



平和を邪魔するもの。「土地問題での喧嘩」「近所の人の陰口」「経済的困窮による夫婦喧嘩」



BDA (パンサモロ開発庁) の講師「真のムスリムは、平和を推進する者であるべき」



参加者の集合写真

(ハ) 「平和の学校」 (SOP: School of Peace) 準備活動
 テーマ：「平和の概念」や「平和の学校 (SOP)」の基礎

2) 2月8日 (水) ～11日 (土)：南部ミンダナオ大学
 受講者：ティヌトゥランとバラティカン村のリーダー30名



国際監視団 (IMT) の福永、落合氏両氏によるご挨拶



平和なコミュニティとは？「暴力がない」「互いに助け合っている」「子どもたちがみな通学している」



BDA (バンサモロ開発庁) の講師によるイスラムの視点からの「平和」ワークショップ



ロールプレイによる「紛争の要因と解決方法」の理解促進



研修での学びを共有。「紛争解決についてもっと学んで自分で実践できるようになりたい。」



現地事業担当松浦 (左) から修了証を受け取る参加者

- (ハ) 「平和の学校」 (SOP: School of Peace) 準備活動
・テーマ：「平和の概念」や「平和の学校 (SOP)」の基礎

3) 3月30日 (金) ～4月2日 (月)：南部ミンダナオ大学
受講者：パラバック、ヌグアン、ティヌトゥラン村の地域リーダー44名



研修に対する参加者の期待を確認するスタッフ



講義に真剣に耳を傾ける参加者



「平和」と「紛争」に対するイメージを描き、お互いに比べる参加者たち



参加者が経験した紛争



紛争解決のロールプレイ



修了書を手にした参加者たち

(ハ) 「平和の学校」 (SOP: School of Peace) 準備活動
 テーマ：「平和の概念」や「平和の学校 (SOP)」の基礎

4) 4月10日 (火) ～13日 (金)：南部ミンダナオ大学
 受講者：ティヌトゥラン村の中学校生徒27名



「ミンダナオの平和の概念」をわかりやすく説明するスタッフ



新しい知識を吸収する参加者



参加者に質問を投げかけるスタッフ



お互いの「平和」の絵を鑑賞する参加者



身の回りの「紛争」を絵で表現する



参加者が描いた「紛争」の絵

(二) 「平和の学校」研修 小学生対象
 テーマ：「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」(1)

5) 3月10日(木)：スルタン・メモリアル小学校
 受講者：ティヌトゥラン村小学生115名



スタッフによる研修の概要説明。「今日は平和と争いについて学びましょう。」



子どもが描いたJ-BIRDのロゴ



勉強する権利を十分に受けられない自分の経験について語る参加者。



子どもの権利について演劇で表現。



紛争解決の方法を学ぶ。「コミュニケーション、交渉、仲介、対話」がキーワード。



研修終了後の全体写真

(二) 「平和の学校」研修 小学生対象
 テーマ：「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」(2)

6) 3月25日(日)：スルタン・メモリアル小学校
 受講者：ティヌトゥラン村小学生71名



研修の概要について、現地の村の言葉であるマギンダナオの言葉で説明するスタッフ



「平和」の概念を考える。「平和とは調和と協力だ」「正義がある社会が平和になる」



子どもたちによる「平和」と「争い」の定義。「争いとは誤解があり調和がない状態。」



子どもの権利を学ぶ。「十分な食べ物や元気な体を与えられることも権利である」



「紛争」が起こる状況とその解決方法について、演劇を通じて表現する子どもたち



研修終了後の全体写真

(二) 「平和の学校」研修 中学生対象
 テーマ：「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」(1)

7) 2月18日(土)：スルタン・メモリアル小学校

受講者：ティヌトゥラン村中学生117名



イスラム教のお祈りで研修を開始



「子どもの権利」を学ぶ。「暴力から守られることも子どもの権利です。」



個人・家族間、学校・地域において「平和を邪魔するもの」を考えよう。



平和を邪魔するもの。「兄弟間の妬みあい」「両親の喧嘩」「家族間の紛争」など。



争いの平和的解決を学ぶ。「コミュニケーションと対話が大切だとわかった。」



研修終了後の全体写真

(二) 「平和の学校」研修 中学生対象
 テーマ：「尊厳と権利」「コンフリクトマネジメント」(2)

8) 3月3日(土)：スルタン・メモリアル小学校
 受講者：ティヌトゥラン村中学生87名



まず研修への期待や不安を書きだす。「平和構築について知りたいです。」



プロジェクトコーディネーターのテスガ、事業目的などについて説明。



身の回りの「平和の邪魔をするもの」について話し合い、模造紙に書き出す参加者たち



平和を邪魔するもの。「争ってばかりの町内の役員たち」「人の粗探しばかりする態度」



「どうすれば争いが平和的に解決できるのだろう。」子どもたち「話し合いが大切」



理解度を測る評価表を記入する参加者たち

(二) 「平和の学校」研修 教師対象
テーマ：「人生と平和」

9) 2月24日（金）～27日（月）：南部ミンダナオ大学
受講者：ティヌトゥラン村小学校及び中学校教師と校長20名



研修内容、講師、参加者に対する期待の確認



心を落ち着けて研修に臨むための瞑想の時間



「平和なコミュニティ」の具体的なイメージを共有する参加者たち



平和なコミュニティの絵に常に存在する学校



マギンダナオ族の伝統的結婚式の様子を紹介する参加者たち



研修終了後の全体写真

(二) 「平和の学校」研修 教師対象

テーマ：「平和教育に関する大統領令と教育省通達」

10) 3月13日（火）～14日（水）：ダバオ医科大学研修センター

受講者：対象7か村の小学校、中学校校長、教育省関係者26名



参加者の期待の確認を行うスタッフ



「平和の学校」実現までの経験を発表する教育省第12地区平和教育担当者



参加者から活発な意見、質問が出され熱気で溢れる会場



現実を踏まえ、理想の社会に近づくために教師が担う役割についての発表



ゲーム通じて、研修で学んだことを再確認



参加者の集合写真

(二) 「平和の学校」研修 教師対象

テーマ：「心と平和」

11) 4月21日（土）～23日（月）：Mindanao Training Resource Center
受講者：ティヌトゥラン村小学校及び中学校教師と校長27名、地域リーダー対象



参加者がこの研修で学びたいことをグループごとに発表



社会心理専門家ロハニ・バラグディア氏の講義



参加者が講義を通じて学んだことを色紙に書いて貼り、皆で共有する



心理的な負担・ストレスの原因についてグループごとに議論する



教師たちにとってのストレスの原因。「経済的問題」「子どもたちの悪い態度」「PTAの問題」など。



研修終了後の集合写真

(二) 「平和の学校」研修 地域リーダー対象
テーマ：「人生と平和」

12) 3月20日（火）～22日（木）：南部ミンダナオ大学
参加者：ティヌトゥラン村地域リーダー15名



研修前に評価表を記述



だまし絵を使い、人によって視点の違いがあることを学ぶ。



「資源配分」をめぐる争いを解決するためには、相手と自分のニーズを調整する。



コミュニティで実際起きた事例を元に、紛争の分析、平和的解決の手段を議論。



宗教指導者も参加。「人の話を心で聞くこと。それが本当に大切。」



修了書を手に集合写真